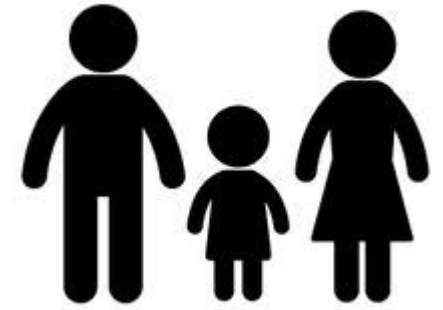
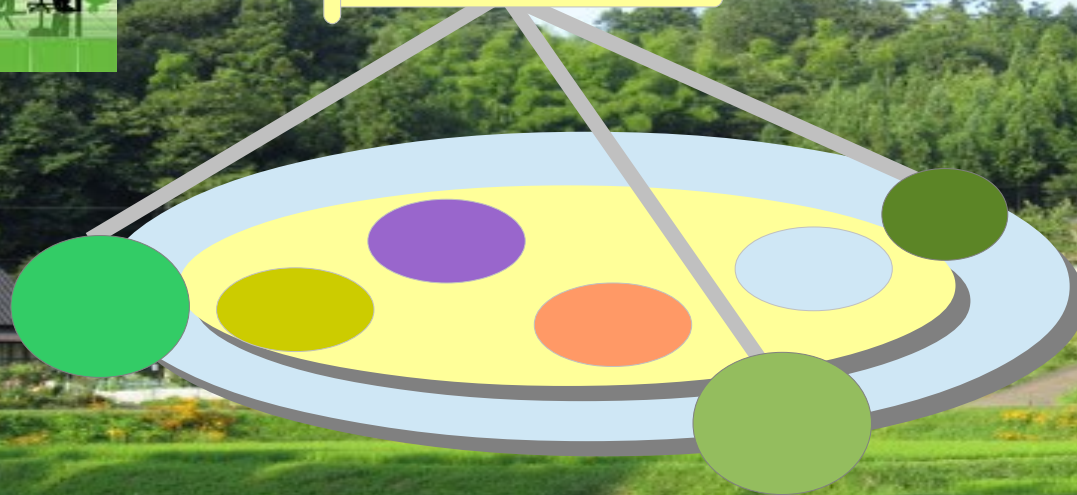


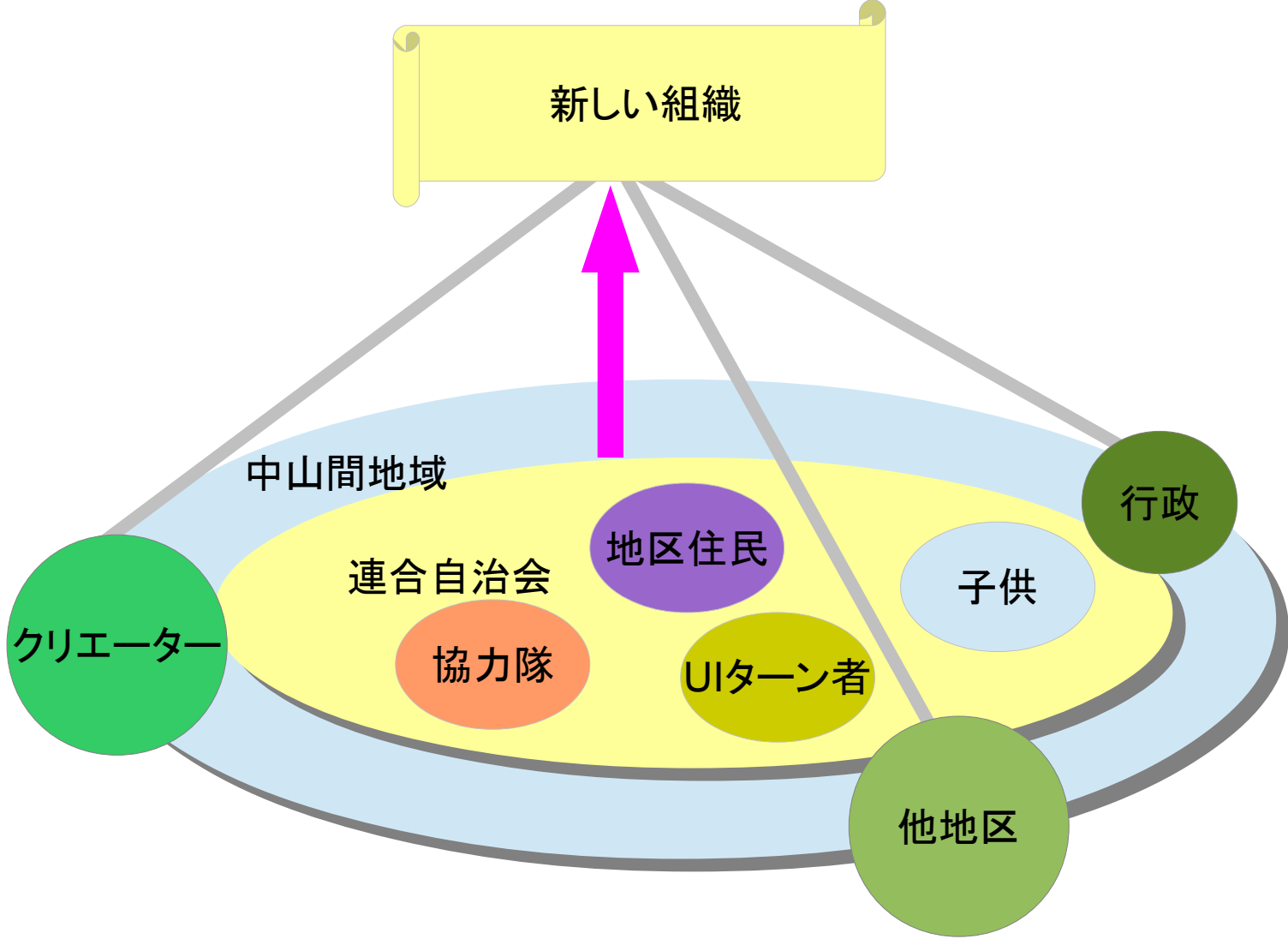


New organization

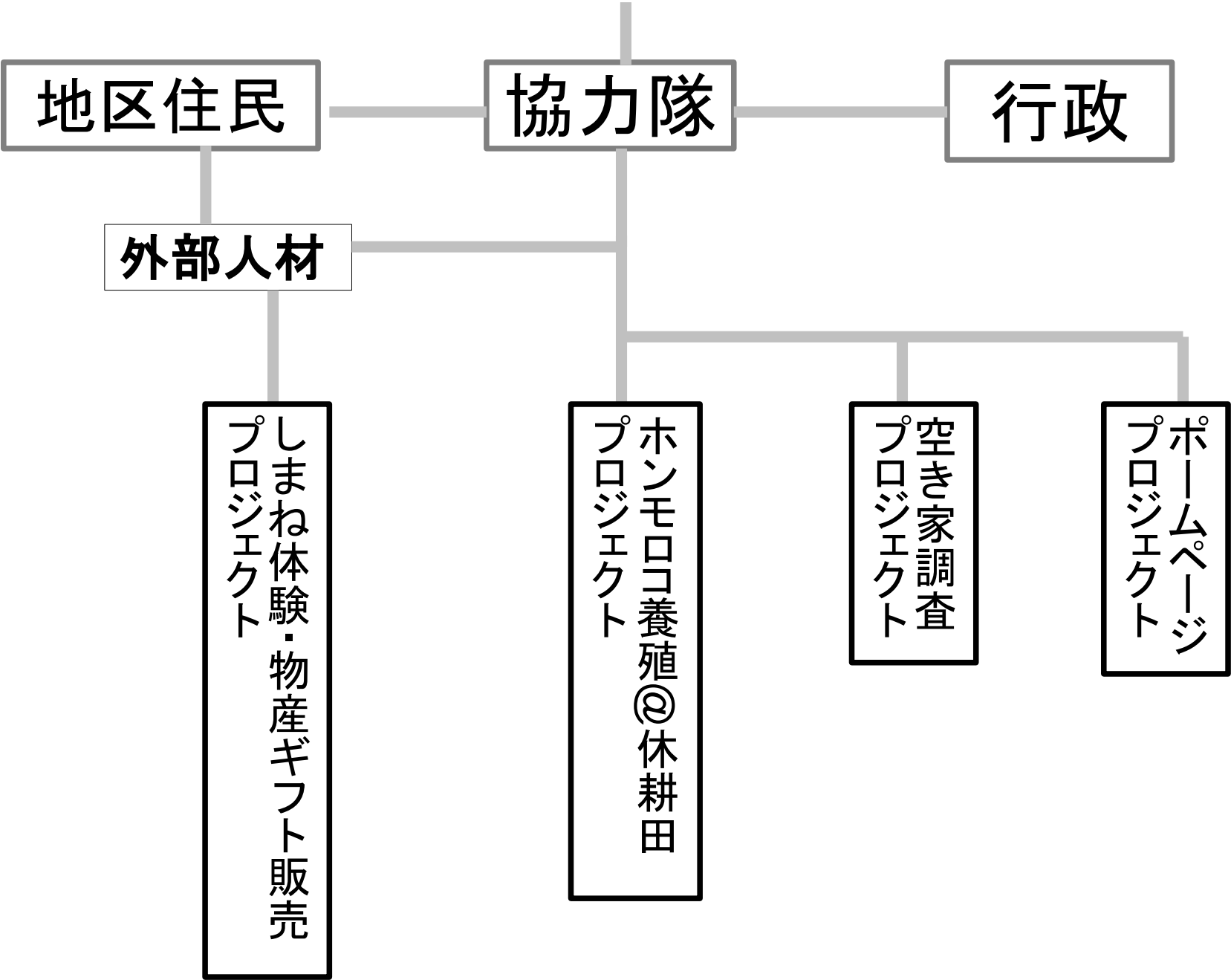


NPO





連合自治会



事業の趣旨

本地区は1500年以上続く豊かな里山で、人口252人の、住民主導のイベントや行事が頻繁に開催される賑やかな地区です。店が一軒もなく、8年前に小学校も廃校になりましたが、公民館では毎年5教室行われ、毎年敬老会や運動会、さらに春、夏、秋それぞれ神楽を呼んでのお祭りがあります。その主体は全て地域住民の任意団体であり、食の自給率だけでなく、エンターテイメントも自給しているという活気溢れる地域です

しかし本地区は、過去30年で人口が4割減少し、村の存続も危ぶまれています。危機感を募らせた地域住民は、UIターン者の確保を最重要課題に設定しました。課題解決のために、まず総務省の事業「地域おこし協力隊」(以下協力隊制度)を日本全国でも2番目に早く配置したことから、UIターン募集へ向けての地域住民の機運も高まっていることが分かります。

Uターン促進募集のためにまず必要なものは、①住居②現金収入源確保③Uターンの受け入れ、支援体制の整備です。本事業を通して地域住民が主体となって産業創出、交流事業、空き家調査を行い、半農半Xといった農ある暮らしを求めるUターン者を募集します。地域住民が事業の主体となることで、協力的なUターン者の受け入れ、支援体制ができあがることが期待されます

さらに、協力隊制度を導入して3年たった今、より機動力を持ってUターン促進事業を展開するためのNPO法人を、協力隊員と地域住民が設立することになり、平成25年夏の設立を目処に目下準備中です。本事業で展開するプロジェクトをこのNPOが継続的に行い、Uターン促進を進めるための新しい仕組みとなるよう勉強会を重ねています

Uターン者が増え、空き家が減り、田畑も耕されて子どもの声が村に響くようになることは、地域社会にとって喜びであるとともに、地域存続の大きな一歩となります

数値目標は

<2012年12月31日現在>

世帯数118 人口総数282 高齢化率 49.9%

<2016年12月31日目標>

世帯数130 人口総数320 高齢化率 40%

UI ターン者募集という課題を解決するために、

- ①住居
- ②現金収源確保
- ③UIターン者の受け入れ、支援体制の整備が必要です。

① 住居の確保

地域住民が空き家の詳細な調査と情報をデータ化します。平成24年に結成した地住民による地域活性化任意団体「とまり木」による調査の結果、原型をとどめていて、持ち主がいない、帰らない空き家軒数は21軒。崩壊した家や土地のみが放置されているものは10件以上あります。毎年2軒、人がすぐに住めるように環境整備を行い、情報公開します。

②現金収入源確保

③ 島根体験ギフト販売プロジェクト

島根県全域で展開中の、グリーンツーリズム体験事業の集約ブランド化を計り、それを「体験ギフト」としてウェブサイトに掲載します。

ここでのポイントは、体験事業をクオリティが揃った島根県ブランド商品として販売するという事です。クオリティを確保することで他のツーリズムとの差別化を図り、賛同していただいた県内の事業者と連携して、島根ブランドのグリーンツーリズムを提供します。

事業主体は比之宮地区の住民です。県内各19市町村の「担当者」をおき、それぞれが他地域のグリーンツーリズム事業者に出向いて交流、連携することで、各事業者、各市町村とのパイプとなります。素材を集めてきた19人の担当者は地域おこし協力隊(以下協力隊)アートディレクターに情報共有をします。アートディレクターはその情報を元にトータルブランド化を勧めます。

アートディレクターは今度は出雲コンピューター専門学校の学生と連携してウェブのデザインと構造を考えます。学生がポータルサイト構築を行います。地域おこし協力隊は担当者、アートディレクター、市町村、事業者のコーディネーター役となります。

1年目はウェブサイト構築、ブランド化、連携をすすめ、2年目は試験運用を行い、3年目に本格的にビジネスとして発展させていきたいと思っています。

③ 島根物産ギフト販売プロジェクト

上記の「島根体験事業ギフト販売プロジェクト」に加えて、19人の担当者が、担当地区の特産品やお土産品の情報を集め、アートディレクター、協力隊と情報共有し、体験ギフトの掲載サイトに同時設置する、販売サイトに掲載。この販売サイトも出雲コンピューター専門学校が構築します。

体験事業ギフト販売と同じく、1年目はウェブサイト構築、ブランド化、連携をすすめ、2年目は試験運用を行い、3年目に本格的にビジネスとして発展させていきたいと思っています。

③ ホンモロコ@休耕田プロジェクト

ホンモロコという高級魚を休耕田で養殖します。昨年10月に広島市立大学の学生が作ったいけすを使って、今年5月に養殖をはじめて11月に収穫します。1年目は地元住民に振る舞い、地域住民に魚を好きになってもらいます。2年目は地元住民を巻き込んだのモロコ養殖を実施して、ビストロリヨンをはじめとした東京、広島のレストランに卸し、売り上げ高400万円を目指します。3年目はノウハウを蓄積し、多くの人々に広めつつ、600万円の売り上げを目標とします

【仕組み作り・関係者のチームワーク構築の年】

1. 島根体験・物産ギフト販売プロジェクト

- ① 連合自治会長、アートディレクター、出雲コンピューター学院、協力隊、県、とすべてのプレイヤーが顔合わせを行い、一連の動きを確認する。
- ② 協力隊が各市町村のグリーンツーリズムの事業所調査と連携を開始。ある程度連携する事業所が固まったら、19人の担当者を地元から募集。19人の担当者へ向けて月1回のコンサルティング、情報共有会を行う。この際、各地域の物産リストも同時につくる。
- ③ クオリティ統一化セミナーを年間を通じて4回開き、始めの2回は19人の担当者向け、残りの2回は19人の担当者と他市町村の事業者向け。
- ④ ある程度連携ができたところでアートディレクターを中心にブランド化をすすめる。方向性が決まったら、各市町村に告知のチラシを配布。
- ⑤ 利益の出し方を検討

2空家調査プロジェクト

- ①任意団体とまり木のメンバーに所有者の連絡先、家の状態、賃貸／販売可能な状況かどうかを調べてもらい、資料にまとめてもらう。
- ②地域の若者がそれらをマップに落としデータ化する。

3ホームページプロジェクト

- ①地域住民が毎月コンテンツをアップデートする。
- ②海外へも発信するためにホームページの英訳を行う。

4ホンモロコ養殖@休耕田プロジェクト

- ▷売り上げ目標40万円(ただし分配するので残らない)
- ①養殖池の消毒、プランクトンの培養後、卵をふ化させる。
 - ②ホンモロコ養殖開始
 - ③ホンモロコ収穫後、地域の方と試食会

【試験運用の年】

- ▷売り上げ目標40万円

1. 島根体験・物産ギフト販売プロジェクト

ウェブサイトを夏前までにオープンさせ、試験運用を開始する。オープンまでにプレイヤーを確保、業務内容を1年間で固める。

2 空家調査プロジェクト

1年目で集めたデータをウェブに公開しつつ、引き続き1年目と同じメンバーで田畑、山の財産の整理、データ化を行う。

3ホームページプロジェクト

引き続き更新をする。

4ホンモロコ養殖@休耕田プロジェクト

▷売り上げ目標400万円

①1年目と同じように養殖。もし地域内で参加者ができれば、地域の方と一緒にすすめる

②販路開拓を行う。

【本格稼働の年】

ホンモロコの事業の売り上げ目標600万円、島根体験・物産販売では売り上げの見当をつけて、軌道修正しながら、1年目に設立した特定非営利法人に事業を引き継ぎます。

「新しい仕組みづくり」

「人は歯車ではなく、社会と共生するパズルのピースで有りたい」

比之宮には新しい仕組みがないと集落が衰退します。

移住者がいなく、少子化が進むからです。どうして村が存続する必要があるのか？それはこの村が私たちに必要だからです。私たちは、「人はよくわからない何かの歯車ではなく、社会と自然と共生するパズルのピースで有りたい」と考えます。ですので、仕事に人が合わせるのではなく、人に合った仕事を作りたい。現代の経済・物流・産業・教育・食・人社会の、均一化された仕組みではなく、人の暮らと、それを育む環境の里山の価値を確認し、昔から続く四季や自然現象に合った生活スタイルを見直すこと、そして個々人の能力をその生活スタイルには込む仕組みが必要ではないかと考えます。

そうはいってもいきなりそのパズルにカチッとみんながはまるわけではありません。自然の仕組みに人をはめ込む、というコーディネート能力が最重要題です。

そして比之宮のNPOはこのコーディネート役を担えると思っています。

コーディネートに必要な条件は、「全体理解・個別理解・仕組み構成・不足/過剰部分の理解・個人の能力の理解・現状の理解・将来像・方向性」など多々あります。一番前提条件として、人と人の調和・理解・他人を認める心を持つこと、つまり「違いを楽しむこと」がコーディネーターに必要な不可欠なものだと考えます。その精神をもって「新しい仕組みづくり」を遂行していきたい。

仕事に人が合わせるのではなく、人に合った仕事を作る

☆新しい仕組みとは？NPO法人が実現したいことは？（協力隊2人の考え）☆

「人に合った仕事を作る」

人は、存在そのものが資源です。人資源を最大限に活用できる環境が、田舎にない、と思い、みんな故郷を離れ都会に出ました。都会では何でも揃っています。食べ物のこと、生活必需品のこと、ご近所さんのことを考えなくても工夫しなくても生きていけます。もう、ヒトもモノも飽和状態です。一方で田舎は、ヒトもモノもカネも都会に比べて乏しいので、人資源を最大限に活用できる環境といえます。無い物はないではなく、無い物は作る事が出来る、人が仕事に合わせるのではなく、人が出来る仕事を組み合わせる事が出来る。無理のない生活環境を作る事が出来る地域にしたい。それが新たな地域運営の仕組みづくりと考えています。

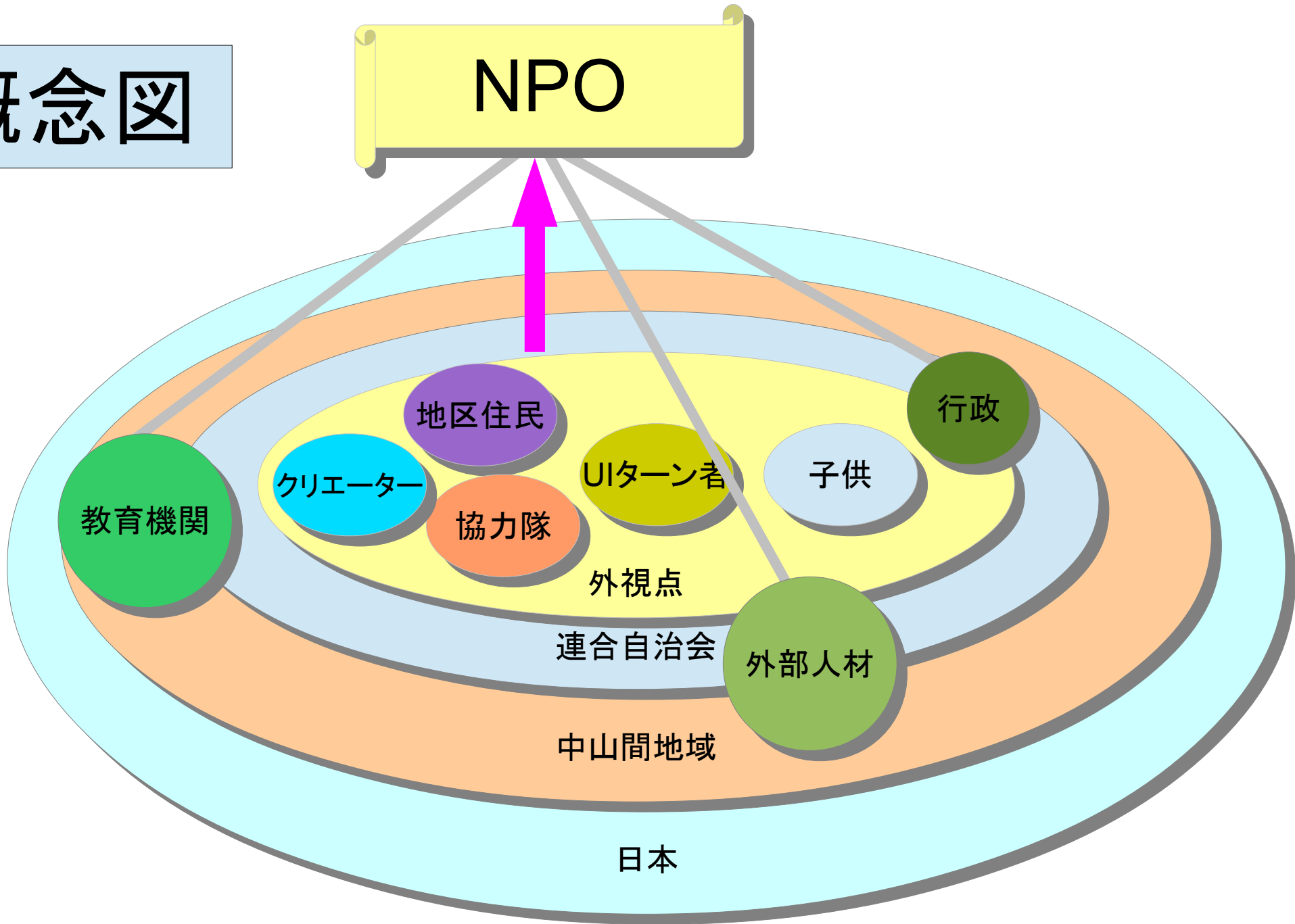
「田舎センスと都会センスの出会う場所を作る」

都会は都会の、山間地は山間地の経済感覚・生活スタイルを認め、違いを楽しむひとたちの出会う場所にしたい。比之宮の人にとってはふるさとを、都会の人にとっては、自分に無理しない、悲壮感を伴う苦勞でなく楽しい苦勞が出来る場所を提供したい。

「将来の宝」

小人数でも、子どもはいます。そして子どもは大人の対話のパートナー。将来地区を離れ就職しても、ここが良かったなー、戻ってみるかーと子どもの心に残る地域を作りたい。そして子どもが誇れる地域づくりをしたい。そのためには子どもと大人が、お互いが先生となり友達となれるような活動をしたい。

概念図



連合自治会

外部人材

行政

教育機関

比之宮存続の
ビジョン創造

NPO

新たな地域運営の仕組みづくり

住居の確保

現金収入源確保

受け入れ体制整備

Uターン者募集

空き家調査プロジェクト

短期宿泊所確保・運営（美郷町）

しまね体験・物産ギフト販売
プロジェクト

ホンモロコ養殖@休耕田
プロジェクト

ポホーアイス試作プロジェクト

Uターン者コンシェルジュ

休耕田・耕作放棄地の調査・活用

休眠農業機の集積整備活用

農作物の栽培支援（農業士会）

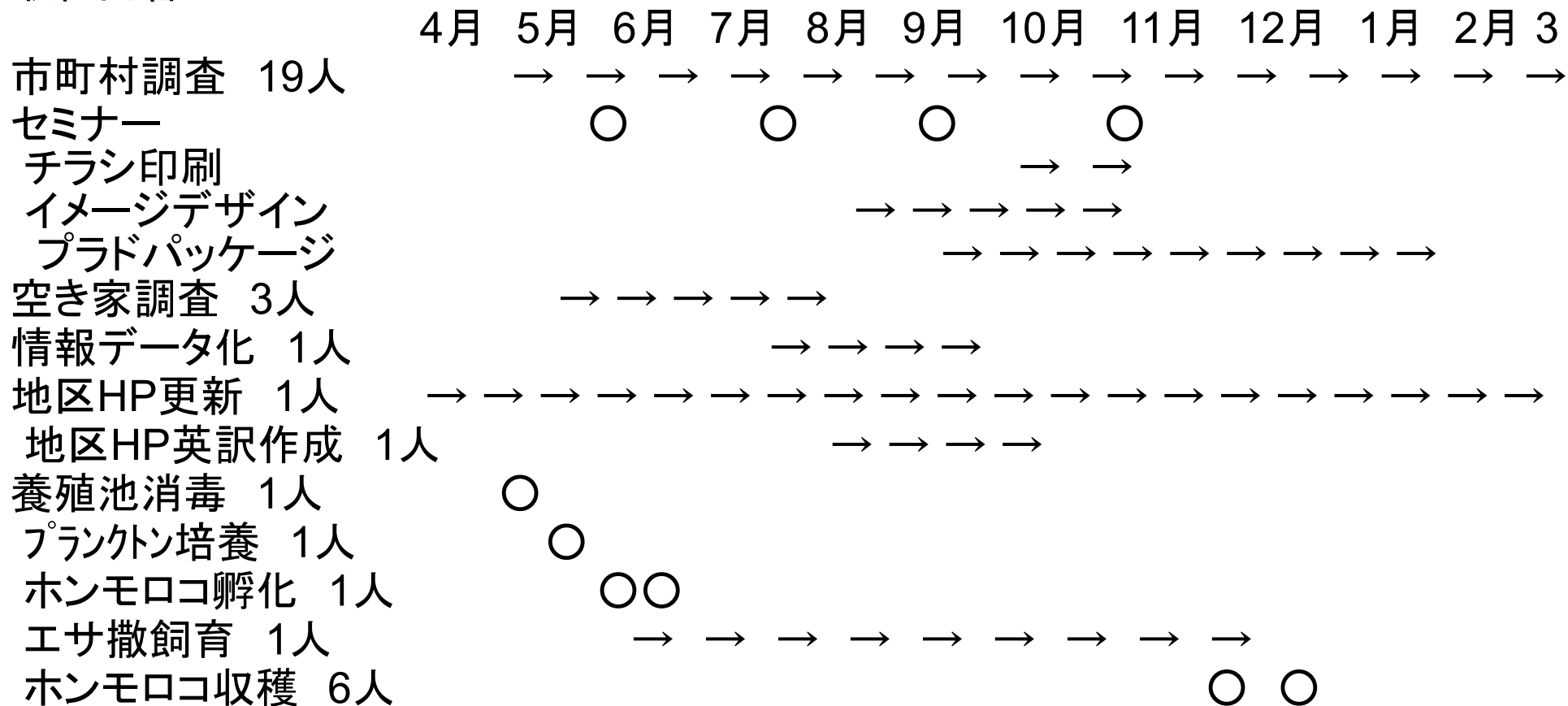
ホームページプロジェクト

Uターン者PRR活動

しまね体験事業（定住財団）

●実施人数スケジュール

取組内容



その他 平行業務

- A) UIターン者向け補助金 勉強会 (しまね暮らし推進課)
- B) 地区農業法人HPプロデュース (出雲コンピューター専門学校)
- C) しまねプロボノ推進 (定住財団)
- D) HP中間報告会
- E) 子供記者 自立運営 援助 (編集長 企画課 吉田)
- F) ばんりゅう君 塗り絵公募 発表3月末 (フレンド)
- G) 島根県広島フェア-INフラッシュモグ企画実行 (広島市立大ダンス部)
- H) 海と山との交流 野菜と魚交換 (仁摩 五人男水産)

新規産業創始

- a) 週末カフェ企画
- b) 貸し田圃の企画
- c) 油布団企画